

新たなものづくりシステムと 関連施策の現状

2016/2/17

科学技術振興機構 経営企画部
未来創造システムチーム 岡山純子

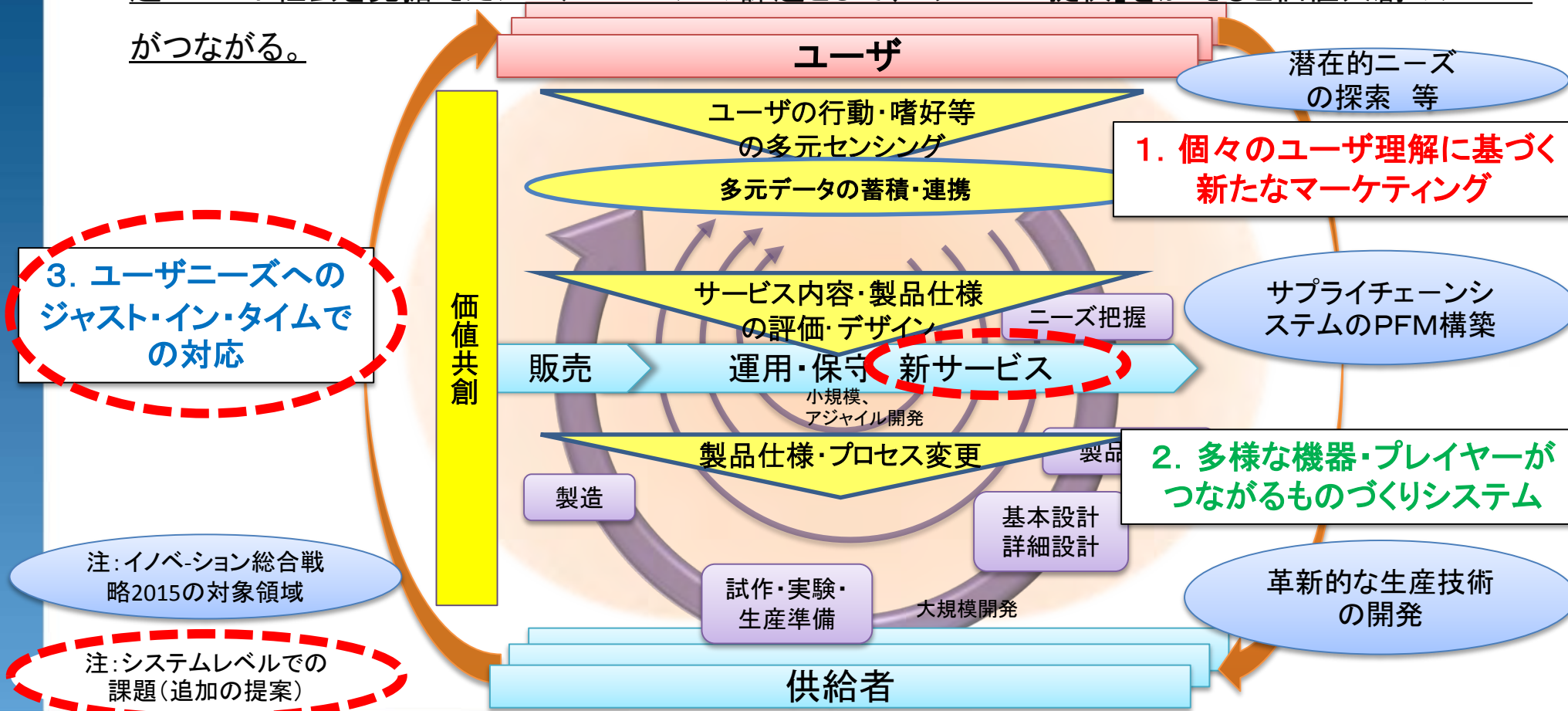


科学技術振興機構

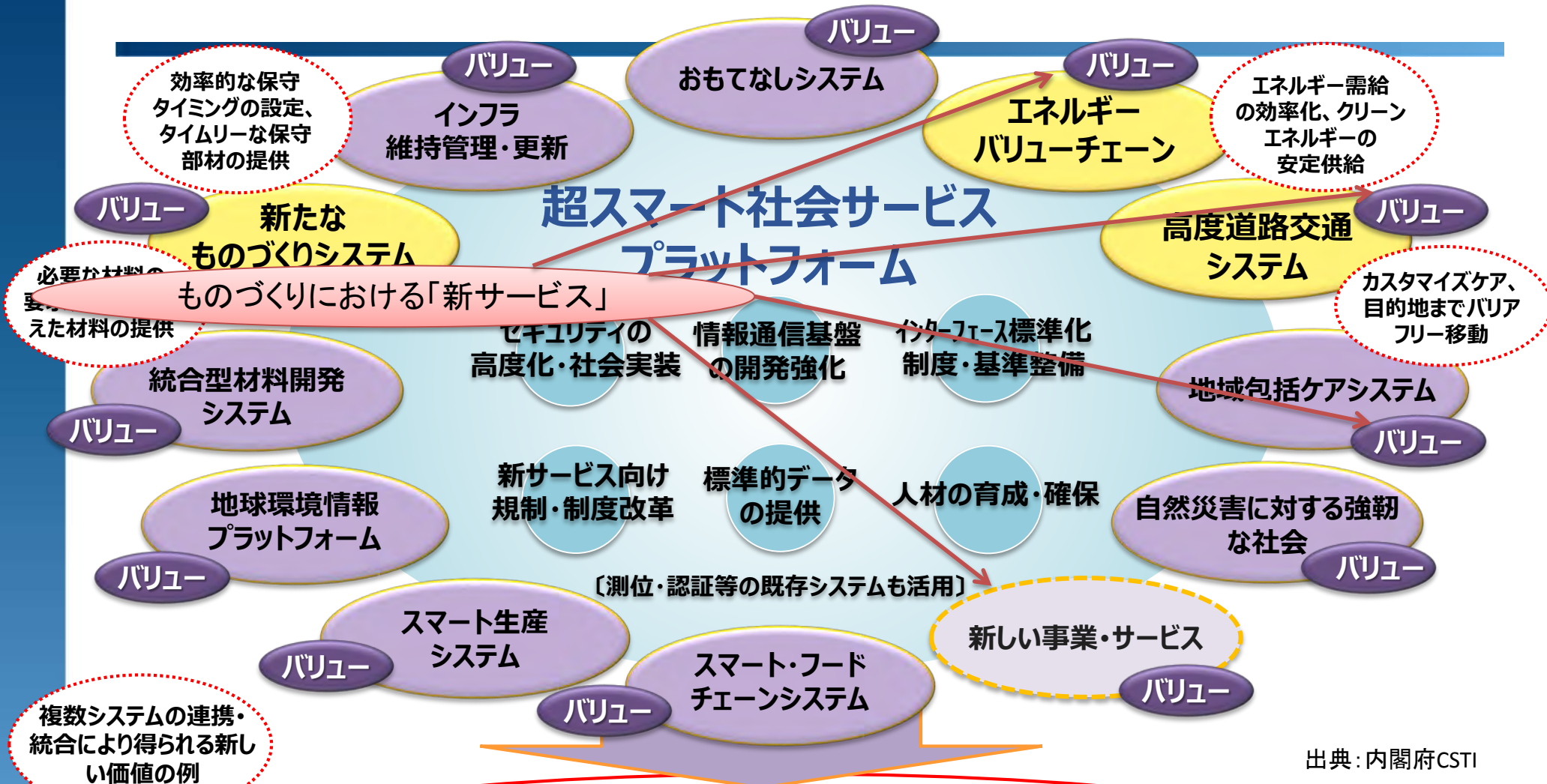
新たなものづくりシステムの概要

～ JST/CRDS「次世代ものづくり」提案より～

- 共通基盤として、マーケティング、製造、サービス提供の3つの機能が必要（マーケティング、製造については、イノベーション総合戦略2015で言及されている）
- 超スマート社会を見据えたシステムレベルの課題として、「サービス提供」を加えると価値共創のループがつながる。



ドメインを超えた新サービスのデザイン



出典：内閣府CSTI

超スマート社会が生み出す価値（例）

- 人とロボット・AIとの共生の実現
- カスタマイズドサービスの実現
- 潜在的ニーズを先取りしたサービスの提供
- サービスの格差の解消
- 新たなバリューチェーンの社会実装による産業の創出

必要な施策(案)

1. 個々のユーザ理解に基づく新たなマーケティング
 - 各省において、脳科学、センシング等に係る基礎研究が進められている。
 - 基礎研究の成果を、サービス・システムデザイン等の人文社会科学等の理論との連携に基づき統合化、実用化に向けた研究を行う仕組みが必要では？
2. 多様な機器・プレイヤーがつながるものづくりシステム
 - ロボット革命イニシアチブ協議会(IoTによる製造ビジネス変革WG)やIndustrial Value Chain Initiative (IVI)等において、システムや国際標準化に係る検討が進められている。
 - IoTラボをはじめとする関連施策との連携で十分か、民の自主的な取組を促す仕組みと併せ要検討。
3. ユーザーニーズへのジャストインタイムでの対応／新サービスのデザイン
 - 各ドメインを超えたサービス連携についての構想(デザイン・プラットフォーム創出を含む)が必要。(システム基盤技術協議会で検討開始？)
 - 上記1、2の成果を取り込みつつ構想の実現化を目指す実証プロジェクトの推進
4. 上記1～3が有機的に連携可能となる仕組みや次世代人材の育成・確保